TENDAI +Links No.2

生涯教育専攻 子育て応援プロジェクト通信

パパともっと遊びたい！

Project for Community-based Childcare Support

もくじ

点から線、線から面へ　杉山　晋平　1

SCENE.3　第1回パパスクール
からだあそび教室

パパスクールお手伝い
＆見学記　福井　隆太　2

進行表だけでは
生まれないもの　貴村　陽香　7

編集後期

（巻頭言）点から線、線から面へ

天理大学　杉山　晋平

「線」から「面」への展開を意識し、子育てを楽しむつながりや文化が地域に根づいていくのを支えていくことはできないだろうか。昨年一年間の経験を振り返り、その延長上にある今年度、またその先にある次年度を展望し、そんなことを考えております。

「天理市若者世代男女共同就業促進事業（以下、天理市事業）」をきっかけに天理市健康推進課、ＮＰＯ法人ファザーリングジャパン関西（以下、ＦＪＫ）の皆様とご縁をいただいたのが、ちょうど一年前のことです。

当時、天理大学に着任したばかり私はまだ右も左もわからないまま、日々の授業や業務に精一杯でした。文字通り自転車操業という状態の中で（今もあまり変わらないのですが）、「早く天理のことを勉強しなければ、早く地域の方々にご縁をいただけるようにならなければ…」という焦りに似た感覚も抱いていました。

ちょうど、そんなタイミングでした。本学の広報・社会連携課を通じて天理市事業の一環である「パパティーチャー・プログラム」に協力可能な授業について打診を受けたのです。子育て中の父親が講師となって体験談を学生に語り、子育ての実際やその楽しさ、やりがいを学ぶという内容でした。実施予定時期は半年後の秋頃とのこと、まだ時間に余裕があると感じました。「子育て支援」は社会教育の大切なテーマの一つでありながら、恥ずかしくも私は専門外で勉強不足の身です。にもかかわらず、身の内に直感が走り、「ぜひ自分の授業でお受けしたいです。」と申し出ました。私は、「点」を得たのです。

ここから先がさらに恵まれていました。健康推進課の森さんがすぐに私を事業の打ち合わせに呼んでくださって、ＦＪＫの皆様にもつながり、私は事業の趣旨、到達点や課題についての議論を直接勉強する機会を得たのです。それ以降、厚かましくも打ち合わせに何度も同席させていただき、パパマイスターの授与式やその後の懇親会にも参加させていただきました。

秋にかけては、パパティーチャー・プログラムの実施にあたり、事前学習・事後学習を含め大学側の授業に関して健康推進課やＦＪＫからたくさんのアイディアやご助言をいただきました。そして、当日。パパマイスターの三田さん、中西さんをお迎えしてのプログラム、あの時感じた授業の熱気は今も胸に焼きついています。

さらには、年が明けてからも健康推進課から森さんと児嶋さん、ＦＪＫから篠田さんにご出講いただき、ゲストティーチャーとしてご自身のキャリア形成や地域子育て支援について講義をしていただきました。

パパティーチャー・プログラムという機会を「点」とするならば、昨年一年間で私が学んだのは、それを「線」にしていくことの大切さでした。そのことを思うと、「点」を「線」にひきのばしてくれたこのご縁に感謝の気持ちでいっぱいです。

今回から始まる「パパスクール」特集。子育てを楽しむお父さんたちのつながりは、少しずつ、確実に広がっています。お父さんたちの手でここ天理市に豊かな子育て文化がまた一つ、つくられていく兆しも生まれています。

その文化をより広く地域により広く根づかせていくために、実践が積み重なった「線」を「面」へと展開する支えになれるよう、この通信の編集を試みてまいります。

今回は、第１回パパスクールの様子をお届けします。からだあそび教室、ダイナミックな展開でした！

SCENE 3 第1回 パパスクール

からだあそび教室

パパスクール お手伝い&見学記

福井　隆太

こんにちは。今回、僕は天理市の事業の一環である、子育てをするお父さんを応援する父子体験教室「パパスクール」のお手伝いに参加させていただきました。この記事は、お手伝いに参加させていただいた、僕の視点から書いていきます。

今回のパパスクールは、第1回目ということで参加されたお父さんたちも子どもたちも、お互いほぼ初対面です。そういうわけで、最初の自己紹介の時は、まだ会場全体にちょっとした緊張感があったように思いました。実は、僕自身、初対面の人と話すのは得意ではありません。ほかでもない僕が一番緊張してのではないかと思います。しかし、子どもたちは時々、他の子どもの方へ視線を送ったり

６月１日土曜日、いよいよ今年度の父子体験教室「パパスクール」の開講です。自己紹介をからめたアイスブレイクから始まりました。この日のテーマは、「からだあそび」。ＮＰＯ法人ファザーリングジャパン関西の理事長である篠田厚志さん自らが講師をつとめます。絵本の読み聞かせから始まり、おなじみのしっぽとりゲーム、ダンボールブロック 100 個（！）を使ったかまくら遊びやドミノ倒しなど、ダイナミックな遊びを通じてみんなの距離がどんどん近づいていきました。

し始めていて、何かのきっかけがあれば子ども同士のやりとりが生まれてきそうでした。

自己紹介の後は、講師の篠田さんによる絵本の読み聞かせの時間です。お父さんと子どもが一緒に、絵本に合わせて体を動かしたり、跳んだりはねたりするという、ユニークな読み聞かせでした。お父さんと子どもが一緒に遊ぶ姿はとても微笑ましく、温かく感じました。

一番初めにその場に馴染み始めたのは、子どもたちだったように感じました。読み聞かせの後の椅子取りゲームをアレンジしたコーン遊びの時のことです。まず、フリスビーのような形の踏んでも痛くない柔らかいコーンを、参加人数より一つ少なくしてフロアーに置きます。その周りを音楽に合わせてみんなで回るのですが、音楽が止まった瞬間、近くにある

コーンを踏む（踏めない人が一人出てくる）という、椅子取りゲームをより安全にアレンジした遊びです。この遊びの中で、子どもたちが自分のお父さんのもとから離れ始め、コーンの間を自由に走り回っていました。時折、子どもたち同士の会話が僕の耳にも聞こえてきました。自己紹介からさほど時間は経っていないのに、あっという間にその場にすぐに馴染んでいく子どもたちの適応力にとても驚かされました。

このコーン遊びの後は、段ボールブロック遊びです。1メートル程の大きな空の段ボール箱を積み木のように使って遊びます。大人の身長も超えるくらいの大きな建物も組み立てられます。しかも、どんなに大きくても、段ボールだから崩れても安全です。子どもたちは既にお互いに仲良くなり始めた様子で、「大人は入れないようにしよう！」なんてお話しながらトンネルを組み立てています。

他方、お父さんたちにも変化がありました。子どもたちが自由にトンネルを組み立てているのに対抗して、篠田さんの声かけでお父さん同士が協力し、大人の手でしか届かないくらい高さのかまくらを組み立てました。最初の自己紹介以降、家庭ごとに子どもとお父さんのペアでの活動が続いていましたが、今度は子どもたちとお父さんたちという二つのチームに分かれた活動が展開されるようになったのです。段ボールブロックを使ったからだあそびの中で、少し参加者同士の関係が変化していくのを感じました。

その後、休憩時間をはさんで後半のプログラムです。子どもたちは引き続き段ボールブロックで遊び、お父さんたちはもう片方のスペースで輪になって腰を下ろし、お父さん同士の交流が始まりました。

お父さんと子どもが一緒に遊ぶ姿はとても微笑ましく、温かく感じました。

一番初めにその場に馴染み始めたのは、実は子どもたちでした。

その間、僕は遊んでいる子どもたちを見守っていました（僕の方には子どもがなかなか近づいてきてくれません、なぜでしょうか…）。その時にしっかり感じたのは、お互いに完全に打ち解けた子どもたちの関係性です。ほぼ初対面であり、年齢もばらばらであることも忘れさせるくらい、子どもたちは段ボールブロックで楽しく一緒に遊んでい流のです。初めて出会って、1時間ほど。そんな短時間でここまで仲良くなるものかと驚かされました。子どもたちのコミュニケーション能力を僕も見習いたいほどでした。

もう一つ驚かされたのは、子どもたちの元気です。コーン遊びで走り回って、段ボールを何度も積んでは崩してを繰り返したのに、まだまだ元気です。遊び終わって帰る時まで、最後まで子どもたち

ダンボールブロックを使ったダイナミックな遊びの時間。最初は親子で組み立て遊びが始まりましたが、ドミノ倒しで会場全体に一体感が生まれ、さらには子どもたちとお父さんたちで分かれた遊びへと展開していきました。こんなに広いスペースで、こんな大きなブロックを使って、こんなに目一杯からだをつかうような遊びはなかなか経験できないかも。ダンボールなので安全性への配慮もバッチリです。

は元気でした。既に疲れていた大学生の僕に、その元気をどうか分けてほしいとさえ思いました。

以上のように、子育てをするお父さんを応援する父子体験教室「パパスクール」のお手伝いに参加させていただいている立場でありながら、第1回目で発見したことは「子どもたちの適応力」、「コミュニケーション能力の高さ」、「子どもたちの元気」といったように、とにかく子どもたちに関することばかりでした。ただ、子育てを考える上で、子どもについて知ることはすごく大切なことだと思います。子どもに触れる機会が今までほとんどなかった僕からすれば、今回の経験や発見はとても大きなものでした。

次にお手伝いに参加させていただく時には、子どもたちとの距離をもっと縮めるためにはどのようにかかわっていけばよいのかを学びとりたいです。また、今回生まれた参加者同士の関係がこれからどのように発展していくのか、これからの展開に期待して、お手伝いに参加させていただきたいと思います。

第1回目で発見したことは、とにかく子どもたちに関することばかりでした。子どもに触れる機会がほとんどなかった僕からすれば、今回の経験や発見はとても大きなものでした。

進行表だけでは生まれないもの

貴村　陽香

第1回パパスクール「からだあそび教室」に参加しました。この日は、4組8名の父子が参加されて、うち2名のパパさんは昨年度の教室を修了されて、天理市パパマイスターに認定されています。最初お会いした時、4名のパパさんがとてもコミュニケーションしやすい印象を受けました。プログラムが始まるまでの間、他のパパさんとご自身のお子さんの紹介をしたり、天理市の森さんやFJKのスタッフの方々と楽しそうに話をされていました。

プログラムの初めに「アイスブレイク」をして、その場にいるみんなの緊張をほぐします。テーマは「昨日の夜ご飯は?」でした。すぐに答えられそうなものですが、意外としっかり思い出さないとでてきません。パパさんは、お子さんと昨日の夜ご飯に何を食べたか相談しながらみんなの前で発表されていました。

その後、「絵本の読み聞かせ」と「しっぽ取り」、「コーン遊び」をして遊びました。「絵本の読み聞かせ」では、FJKの理事長である篠田さんが講師を担当され、朗読に合わせて親子でジャンプをしたりハグをしたりして、からだを使った読み聞かせを楽しみました。

この時の様子を振り返ると、まだ場全体としてちょっとした緊張感があったように思います。お子さんは自分のパパさんのもとで安心して遊びを楽しんでいましたが、まだ子ども同士での会話はほ

とんどありませんでした。

また、絵本については、子どもは知っているけどパパさんは知らないものも多いんだな、という印象を受けました。しかし、私は「お父さん＝からだを動かして遊ぶ」という子どもへのかかわりの印象を持っていたのですが、お父さんの膝の上に子どもが座って話をしていたり、絵本の読み聞かせを楽しんでいる姿が何だか新鮮でした。

次に遊んだ「しっぽ取り」と「コーン遊び」では、丸めた新聞紙でしっぽをつくったり、異なる色のコーンと音楽を活用したりして、椅子取りゲームのような遊びをしました。ここで、子ども同士の関わりに変化が生まれ始めたと思います。子どもたちは、少しずつ自分のお父さんのもとを離れて、会場を動き回るようになりました。子ども同士の会話も、少し

参加のきっかけはいろいろです。

実はママが内緒で参加申込！？

ずつ聞こえてくるようになりました。

次は、段ボールブロックを使った遊びです。1メートルほどの段ボールブロックが約百個も用意されており、これには子どもたちは大興奮でした。それもそのはず、普通ならなかなか用意できない広々とした部屋、それに百個もの大きな段ボールブロックは子どもたちにとって魅力的です。

最初は親子のペアに分かれ、建物などを自由に組み立てて遊びました。四組四様で、高く積み上げたかっこいいお城もあれば、土台がしっかりした家もあり、親子で協力してそれぞれ素敵な作品が完成しました。

その時のことです。西さん親子が、ドミノのように段ボールブロックを並べ、倒して遊び始めました。全てきれいに倒れて喜んでいる二人の様子に、私もつられて

参加者と触れ合って、臨機応変にプログラムを進めていくのが大切なんだ。

笑顔が込み上げました。その光景を見ていた篠田さんが、みんなでドミノ倒しをしようと会場に声かけされました。先ほどまで続いていた親子でペアの活動が、一気に参加者全員で一つになる活動に変わりました。このような篠田さんの判断について、プログラム終了後の振り返りもうかがいながら、進行表に沿って進めるだけじゃなくて参加者の方々と触れ合ってプログラムを進めていくことが運営側と参加者側の結びつきに繋がるんだなと感じました。臨機応変に対応していく大切さをあらためて学ぶことができました。

その後の段ボールブロック遊びでは、今度はお父さんと子どもが2つに分かれます。子どもたちは[redacted]くん、[redacted]くんを先頭に段ボールで小学校をつくり始めました。パパさんたちも子どもたちに負けじと大きなかまく

休憩明けの後半のプログラムは、子どもたちとお父さんたちに分かれて展開しました。子どもたちは、引き続きダンボールブロックで遊んだり、絵本の読み聞かせをしてもらったりして楽しく過ごしています。お父さんたちは、輪になって腰を下ろし、あらためて自己紹介から始まる交流タイムです。学生メンバーは、子どもたちの遊びに参加しました。初対面でもどんどん打ち解けていく子どもたちの様子からたくさんの気づきが得られました。また、プログラム終了後の振り返りでは、事業運営について実に多くのことを学べたようです。

らをつくり始めます。その中でパパさん同士の会話も少しずつ生まれ、最初に比べて距離が近づいてきたように感じました。

休憩をはさみ、パパさんたちの方は天理市の森さん、ＦＪＫの篠田さん、寺岡さんを交えた交流会が始まり、子どもたちは先ほどに引き続き段ボールブロックでドミノ倒しと秘密基地づくりをして遊びました。

この時、私たち学生は子どもたちと一緒に遊んでいましたが、いつの間にか初対面とは思えないくらい子どもたちは仲良くなっていて、一緒に考えながら遊んでいる楽しそうな光景を目にしました。子どもたちは、一緒に遊べる環境があれば、初対面でもすぐに仲良くなって皆で楽しめるのだなと気づきました。私自身一緒に遊んだのが楽しくて、あっという間に時間が過ぎてしまいました。最初は

顔合わせ・交流会の最後に記念撮影。おかげさまで学生も晴れやかな表情でスタートをきることができました。

「パパマイスター」って、何だろう。どういう方がなれるんだろう。そのことに興味が湧いてきました。

このプログラムの運営のお手伝いとして見学する立場だったけど、子どもたちと触れ合って一緒に楽しんでいるうちに私自身も参加者の一員となり、学生としての子どもとの関わり方を学ぶことができたのだと思います。

あんなに楽しんでくださったパパさんたち。実はママさんが内緒で参加申込をしてパパスクールに来られた方がいました。きっかけがどうであれ、このような事業を通して、子育てに対する気持ちの変化を感じ、有意義な時間を過ごしていただけたと思います。

個人的には「パパマイスター」って何だろう、どういう方がなれるものなのだろうということに興味を持ち始めました。また、どうしても参加できない方々への情報提供についても学んでいきたいです。今回の参加者の中でも、昨年度からの参加になる「パパマイスター」の方々、今年度より参加された方々、そして次回から参加される方々がどのようにつながってこのパパスクールが進んでいくのか、次回参加する学生や杉山先生の撮った写真を見ながら、パパさんの子育てや参加者同士のつながりについて学んでいきたいです。

編集後記

６月末、生涯教育専攻の１回生が集まり、３つに分かれたプロジェクトの活動内容や学んだことを専攻全体で共有する中間報告会が予定されています。４人の学生もこの通信やスライドを準備し、「天理市子育て応援プロジェクト」の参加報告に臨みます。

報告会に先立つこと数日前、私の研究室に４人の学生が集まって、プレゼンテーションの打ち合わせをしていました。私はあまり口をはさまないように意識しているのですが、ついつい「この２ヶ月を踏まえて、自分にとっての『生涯教育』ってこんな感じかなって一言話して締めくくったら？」と声をかけてしまいました。

「非専門性」という切れ味ある表現を思いついた学生、「ナナメ」というパパスクールからみえてきたキーワードを持ってきた学生、授業で読んだポール・ラングランの資料をはたと思い出す学生、さらには生涯教育は「粘土」だ、生涯教育は「トマト」だいったように個性的な表現が飛び交いはじめました。

さて、この編集後記を書いている翌日が報告会。４人の学生がこの２ヶ月の天理市子育て応援プロジェクトを振り返って、「生涯教育」をどう表現してくれるのか、楽しみです。

TENDAI +Links No.2

生涯教育専攻 子育て応援プロジェクト通信

発　行　日	2019 年 6 月 26 日
編集・発行	天理大学 人間学部 人間関係学科 生涯教育専攻
協　　力	天理市健康福祉部健康推進課 ＮＰＯ法人ファザーリングジャパン関西（ＦＪＫ）
連　絡　先	〒 632-0032 奈良県天理市杣之内町 1050 shimpei@sta.tenri-u.ac.jp（担当：杉山　晋平）